

特別養護老人ホーム 天神

1 施設の課題と取組方針

(1) 『心豊かな暮らしづくり』

ア サービスの質の向上

課 題	個別ケアの確立と推進
現 状	<p>天神では平成 27 年 4 月から、サテライトおやまでは平成 28 年 1 月からユニットケアの実践に取り組んでいる。入居者のニーズに対するケアを多職種が協働して実施しているが、入居者一人ひとりのアセスメントが不十分で、ニーズに対して職員誰もが同じようにケアを行えていない状況がある。</p> <p>また、入居者が楽しみや喜びを感じながら生活できるように、施設の設備を活かしたサービス提供の推進も課題である。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルシート 24 の活用と記録の充実により、入居者個々のニーズ及びケア方法を多職種で共有し、個別ケアを推進する。 ・食事、排泄等のケアマニュアルの見直しを行い、ケアの質の平準化に繋げる。 ・入居者が楽しみのある生活を送ることができるよう、おいしい食事の提供や喫茶、売店等地域交流スペースやセミパブリックスペース等の積極的な活用を行う。

課 題	看取りケアの推進と重度化への対応
現 状	<p>平成 27 年 4 月からの特養の機能重点化により、重度の要介護者の割合が増え、看取りケアや認知症ケアの充実が求められている。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・嘱託医師及び多職種が密に情報共有を行い、入居者や家族が望む看取りケアを行うとともに、実施した看取りケアの反省点が次に活かせるように取り組む。 ・看取りケアに必要とされる知識の習得に取り組む。 ・派遣研修や施設内研修により、認知症ケアの実践的な知識及び技術の習得に取り組むとともに、研修成果をユニット職員及び多職種で共有し、認知症入居者に対するサービスの質の向上を図る。 ・ユニットリーダー会議やユニットミーティングで事例検討を行い、認知症ケアを充実させる。

イ 利用者の暮らしの保障

課 題	リスクマネジメントの強化
現 状	内出血や誤薬・誤配等の事故やヒヤリ・ハットが繰り返される状況があり、各職員が日常生活におけるリスクに気づくことができる仕組みづくりが必要である。また、緊急時の対応について、誰もが初動での確実な動作が可能となる訓練が不十分である。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリ・ハットの段階で原因及び状況分析、予防策を多職種で検討する。 ・事故ケースを全職員が共有し、各職員が日常生活におけるリスクに対する気づきができるように取り組む。 ・ケアプラン、24Hシート等を活用し、各入居者におけるリスクの周知と予防策の徹底を図る。 ・緊急時の対応についてマニュアルに基づいた行動が取れるよう、訓練を実施し、対応力の向上を図る。

課 題	権利擁護の徹底
現 状	全国的に介護施設従事者等による高齢者虐待の件数が増加している。天神においては、ユニットリーダー会議を活用してスピーチロック等虐待防止についての研修を行っているが、施設職員としての倫理観、福祉理念の理解及び浸透の徹底が必要である。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設職員としての倫理観、福祉理念を理解し浸透させるため、施設内研修を行う。 ・ユニットリーダー会議やユニットミーティングを活用し、身体拘束や虐待防止に関する意識強化を図る。

ウ 福祉ニーズに即した施設のあり方

課 題	地域との関わり強化と施設機能の活用
現 状	天神及びおやま事業所は地域との関わりが少なく、地域のニーズ把握とニーズに呼応する取組が不十分である。また、天神の地域交流スペースは自治会集会や関連団体の研修等で活用する機会は多くなっているが、施設が持っている専門職機能を地域で活かすことができていない。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲市社会福祉協議会、塩冶・四絡コミュニティセンター、近隣の自治会及び運営推進会議を活用し、地域ニーズを把握し、求められる公益的な取組を検討し、組織全体で連携して行う。 ・災害発生時の施設の役割を地域住民と検討する機会を設け、地域と施設が互いに助け合う関係を作る。 ・出雲市高齢者住宅等安心生活確保事業を継続して受託し、独居高齢者や高

	高齢者のみ世帯の安否確認、緊急時対応等に取り組む。
--	---------------------------

課 題	在宅事業の取組強化
現 状	<p>おやま事業所で展開する在宅事業において、特にデイサービスセンター小山では利用率が伸び悩んでいる。</p> <p>また、いずも小山居宅介護支援事業所においても、利用者がなかなか増えない状況がある。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症デイサービスに求められるニーズと実際の支援内容を比較し、求められる支援を実施する。 ・利用者確保に向け、各居宅介護支援事業所への定期的な働きかけを行う。 ・いずも小山居宅介護支援事業所の利用者確保が難しい要因を分析し、課題を洗い出し、解決に努める。

(2) 『活力に満ちた職場づくり』

ア 人材の確保と定着

課 題	職員の確保と定着
現 状	<p>出雲圏域において介護人材の確保は難しい状況であり、特に夜勤ができる常勤職員が不足している。介護実習等を積極的に受け入れているが、介護職場を目指す人が減少傾向にあるため、ますます雇用困難となっている。</p> <p>また、職員が長く働き続けることができるように、離職防止の取組を行うことも必要である。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の魅力発信と天神で行っている各事業のPRにより、人材の確保に取り組むとともに、短時間非常勤やシニア世代の積極的雇用を進める。 ・人材定着と離職防止に向け、個々の職員が達成感を感じることができるよう、目標設定と取組を実行できる体制の整備を進める。 ・職員同士で業務遂行上の不安や課題を共有し、解決できる仕組みづくりを行う。

イ 人材の育成

課 題	専門性の向上
現 状	<p>福祉施設職員には接遇、認知症や高齢者の病気に対する知識、介護技術等求められる専門性が多岐に渡り、施設全体で専門性の向上に取り組んでいくことが必要である。</p> <p>また、新規正規職員に対しては年間を通してのサポート体制が構築されているが、中途採用者、準職員及び非常勤職員に対しての施設としての育成体制が確立されていない。</p>

取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットリーダーを中心とした OJT 体制を構築し、OJT の中から把握した課題に対し、Off-JT 及び SDS を活用し、個々のスキルアップを図る。 ・出雲市介護相談員と職員を交えて定期的に意見交換を行い、職員一人ひとりの気づきを高める。 ・中途採用者、準職員及び非常勤職員に対しての職員育成計画を確立し、習熟度、進捗状況に応じて段階的に多職種で関わる研修を実施する。 ・認定特定行為業務従事者や介護福祉士等の資格取得を施設全体でサポートする。 ・現行の自己評価方法（「個別ケア提供のための自主点検表」を活用）を見直し、ユニットケア実践のための知識等の習熟度を定期的に確認し、職員一人ひとりのレベルアップとユニットでの実践力の向上に取り組む。
------	--

ウ 職場環境の改善

課 題	働きやすい職場の構築
現 状	<p>子育てや介護をしながら職員が継続して働くことができる環境整備が必要となっている。</p> <p>また、ユニットで一人になる時間が多く、職員の負担感やストレスが増す傾向にあるが、職員間でのコミュニケーションがとりにくいため、業務上の悩みを共有しにくい状況も見られる。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・職員個々の家庭状況等に応じた勤務体制の検討を行う。 ・施設全体での相互協力体制を構築し、休憩時間の確保等労働環境を改善し、職員の負担軽減を図る。 ・職員のストレス原因を管理職が把握できるよう、相談体制を整備する。

課 題	天神とおやま事業所間の連携強化
現 状	<p>職員の施設内研修や夏祭り等のイベントは合同で行っているが、場所が離れているため日常的な職員間の関わりが少ない。ケアにおいてもそれぞれの事業所で完結しており、サービスの質の向上に共に取り組むことが少ない。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・天神とサテライトおやまが連携して実施するユニット活動等の機会を増やし、一体感の醸成を図る。 ・ケース検討や業務における課題解決に向けた取組を共に行う。 ・おやま事業所の在宅部門の職員が、天神やサテライトおやまの職員と相互に学びあえる環境づくりを行う。

エ 業務の改善

課 題	ユニット協力体制の強化
現 状	ユニット職員が不足した場合等ユニット間や施設全体での相互協力体制を構築し、職員の負担軽減を図ることが必要である。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接ユニットの入居者状況及びケアの情報共有を日ごろから行う。 ・ユニット職員が不足している場合等のユニット間や施設全体での協力体制を検討し、具体的な協力方法を策定する。

課 題	介護機器等の活用と業務の見直し
現 状	<p>職員の腰痛予防の観点からだけでなく、持ち上げや引きずりによる入居者の褥瘡や拘縮等の悪化防止の観点からも、介護機器の活用は重要であるが、十分に活用できていない。また、多岐にわたるユニット業務についても、職員の負担軽減と入居者個々のニーズに応じたサービスの両面から見直しと効率化が必要である。</p> <p>食事面については、入居者の状況変化に的確に対応できるよう、取り組んでいく必要がある。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・各ユニットにおける介護機器の利用状況を把握し、作業療法士等が指導を行い積極的な活用を図る。 ・入居者の暮らしや職員の勤務状況に併せて勤務シフトを柔軟に活用し、職員の負担感の軽減に繋げる。 ・入居者の嚥下状態や嗜好を把握し、食べやすくおいしい食事を提供できるよう、厨房機器の定期的更新と業務の見直しを行う。

(3) 『快適な住まいづくり』

ア 計画的な施設・居住環境の整備

課 題	快適に暮らすための施設整備
現 状	入居者が生活する上で安全な住まいの提供、入居者個々の状況に応じた快適な居住環境の提供のため、施設設備の見直しや有効活用が必要である。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・天神及びおやま事業所の施設設備の点検を行い、更新及び改善の必要な設備等をリストアップし、定期的な改善に取り組む。 ・入居者及び家族の意向を把握し、入居者の暮らしが豊かになるよう、施設設備を有効活用する。 ・認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム（PEAP）を取り入れ、施設内の環境づくり及び環境改善を行う。

(4) 『安定的な経営の基盤づくり』

ア 収支の安定化

課 題	施設利用率の維持と在宅事業の利用者確保
現 状	<p>入居利用率については、多少の変動はあるものの、健康管理の徹底や感染症予防の徹底及び入所検討委員会の定期開催により、退所後の空床期間の短縮を図り、ほぼ目標値を達成できている。</p> <p>短期入所、いずも小山居宅介護支援事業所及びデイサービスセンター小山においては、月々の変動が大きく、目標値を達成できていない状況がある。特に、デイサービスセンター小山は、利用者数が低迷しており、今後の事業展開が課題である。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・施設入居、短期入所ともに満足度の高まるサービス提供を行うとともに、病気や事故等に伴う入院を極力回避できるように取り組む。 ・デイサービスセンター小山の利用率に注視し、圏域の他事業所の状況や利用者ニーズを把握しながら、今後の事業存続について検討を行う。 ・居宅介護支援事業所と連携を図り、利用に結びついていない利用者の掘り起こしを行う。 ・天神、サテライトおやま並びにハートフルおやまにおいて、入居者の入院等により空床が発生した際には、短期入所の受け入れを行い、空床の有効活用を図る。

2 中期経営計画数値目標

(1) 利用率

事業名	定員	H28 実績	H29 見込	H30 目標	H31 目標	H32 目標
介護老人福祉施設	50名	98.1%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%
サテライト型居住施設	20名	97.4%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%
短期入所生活介護	10名	97.2%	93.0%	95.0%	95.0%	95.0%
認知症対応型通所介護	12名	40.3%	41.0%	45.0%	46.0%	47.0%
認知症対応型共同生活介護	9名	97.9%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%
居宅介護支援	—	56件/月	60件/月	60件/月	60件/月	60件/月
介護予防支援業務受託件数	—	2件/月	4件/月	4件/月	4件/月	4件/月

(2) 固定資産購入計画

(単位：千円)

固定資産名称	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
電動ベッド（更新）	512	512	512
電動介護リフト（更新）	264	264	
シャワーキャリー（新規）	280	280	280
電動巻き上げリフト（更新）	331		
ミキサー（更新）		350	500

(3) 修繕計画（10万以上～ 大規模修繕を除く）

(単位：千円)

工事名称	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
小破修繕（1件10万円未満合算額）	2,074	1,750	1,750
グループホーム畳撤去	310	0	0
トイレ建具取り換え	381	191	191